

全科協ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成16年7月1日発行（通巻第197号）

特集 博物館の広報活動について

ミュージアムパーク茨城県自然博物館における リサーチに基づく広報戦略について

ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課 村山 哲

平成6年11月13日にオープンした当館は、館内展示のみならず、里山環境を残した野外施設及び隣接する菅生沼の自然環境を利用し、実際に自然体験ができる博物館である。

本年11月に開館10周年を迎えるが、公共交通機関のアクセスが極めて悪いという条件にもかかわらず、平均年間40数万人の来館者を確保している。それには様々な要因が考えられるが、その中でも詳細な来館者の動向を捉えたりリサーチを基礎に様々な手法により展開される広報も、多くの来館者を確保している1つのファクターであると考えられる。

当館は、県立博物館であり、社会教育施設であることから、県民をはじめとする多くの方々に来館していただくことを第一に、その機会創出のための広報は重要な戦略であ

ると考えている。そのためには、来館者の動向及び要求を的確に捉え、それを反映させることが前提となる。そこで当館では、年4回来館者アンケートを実施し、来館者の状況把握に努めている。

当館の来館者の特徴については、半分以上が県外からの来館であること（図1参照）、リピーター（再来館者）の割合が全体の6割を超えること（図2参照）があげられる。

また、来館のきっかけについての調査では、人から聞いた（いわゆるクチコミ）によるものが全体の4割強を占めているが、ポスター等の印刷物、官公庁広報紙、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、インターネット等の媒体によるものを合計すると4割程度となり、当館の広報活動が来館者の

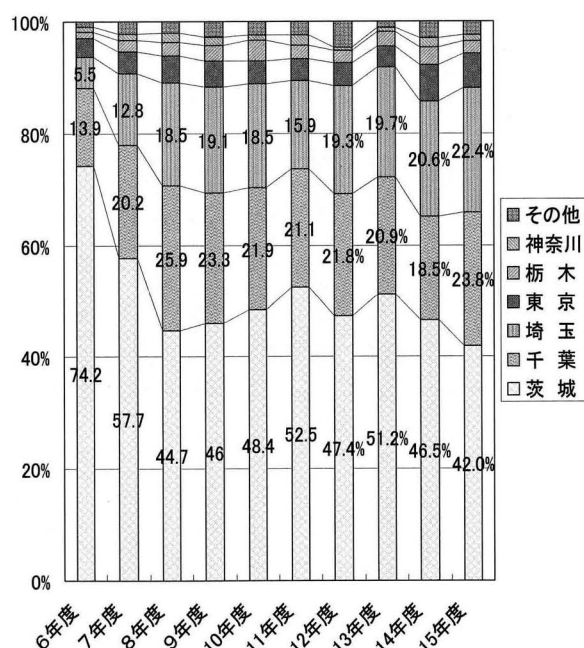


図1 来館者の居住都県別割合の推移

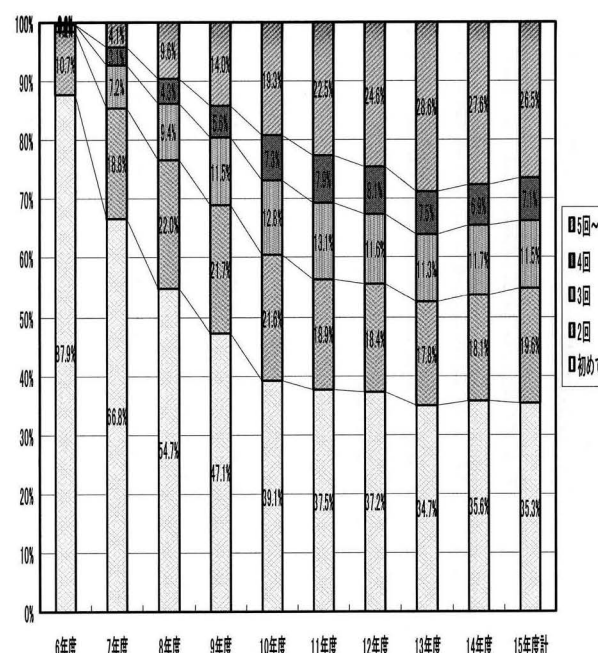


図2 来館者の来館回数割合

確保に大きく役立っていることがうかがえる。なかでも、最近の傾向として、インターネットやEメールといった電子媒体を利用した広報効果が急激な伸びを示しており、館の広報活動の中での役割がますます増大すると予想される(図3参照)。

ただし、この広報手段を考える前に、来館者が何を求めて来館するのかを把握することが重要である。来館目的では、家族で1日ゆっくり過ごせること、企画展を含む館内展示を見ること、野外施設で自然に触れあうことがほぼ同じ割合であるが、展示の中でも企画展に対する期待が大きいことも特徴としてあげられる(図4参照)。

このような来館者の目的に合致し、リピーターを確保するには、まずは、快適な野外設備の整備や魅力ある企画展を開催するといった基本的な条件整備がなされている必要があり、その前提ができていればこそ、展開する広報が実効性を有するのである。

1. 館の印刷物による広報活動

館印刷物については、総合案内パンフレット、半期毎及び夏季の行事案内(イベントガイド)、年4回の博物館ニュースを印刷し、県内及び近県の市町村教育委員会を通じて各学校に配布するとともに、近隣集客施設にも設置を依頼している。

そのほかに当館の特徴として、学校・団体等での遠足や校外学習といった利用が多いことから、団体利用を促進するため、団体利用の手引き及び学校向け利用案内、野外利

用案内チラシを作成し、県内及び近隣の4都県教育事務所等に館スタッフが outgoing 直接協力を依頼したうえで、各学校に配布している。加えて、同じエリアの旅行代理店にも同時配布し、学校利用を提案している。この方法は、企画展開催告知のポスター、チラシにおいても同様に実施している。さらに、このポスターを有効利用する有料広告として、乗降客が多い近隣主要駅にポスターを掲示している。

企画展やイベントのチラシは、ダイレクトメール(DM)でも広報しているが、これには当館友の会の存在が不可欠となる。友の会の会員(年間1,500を超える登録があり、延べ会員数は約5,500人にのぼる)に向けて送付される案内にチラシを同封することで、来館意欲を惹起させるとともに、アンケート回答にもあるクチコミの発信源という役割を担ってもらうことにもつながっている。

また企画展期間中は、博物館へ向かう主要道路に設置されている横断歩道橋6カ所を利用し、横断幕による広報(図5)を実施している。これは茨城県内でも特に当館方面は自動車利用が圧倒的であるため、有効な手段として無料入館日告知や臨時休館等の広報にも利用している。

さらに、日本道路公団や岩井市商店街の協力で常磐道インター出口、市内街路にそれぞれ企画展幟を設置し、博物館進入路の幟とともに企画展開催を強く印象づけ、横断幕広報との相乗効果も図っている。

2. 新聞等の印刷媒体を利用した広報活動

新聞等については、電波や電子媒体が普及した現在でも、

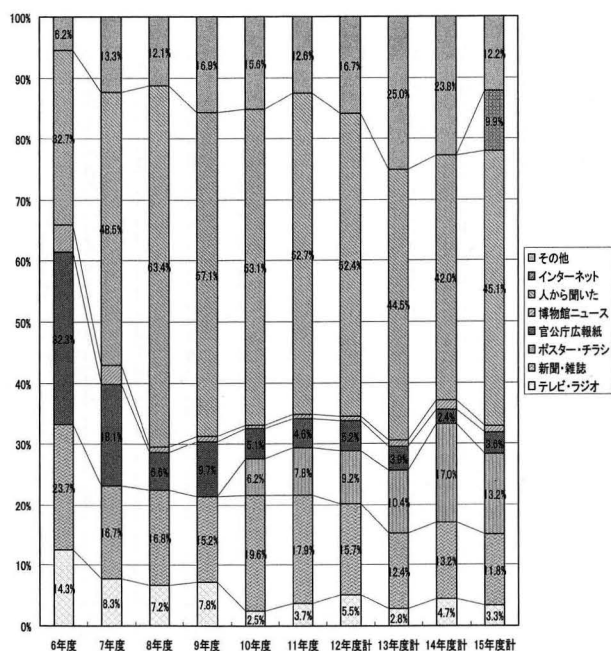


図3 博物館を知ったきっかけ

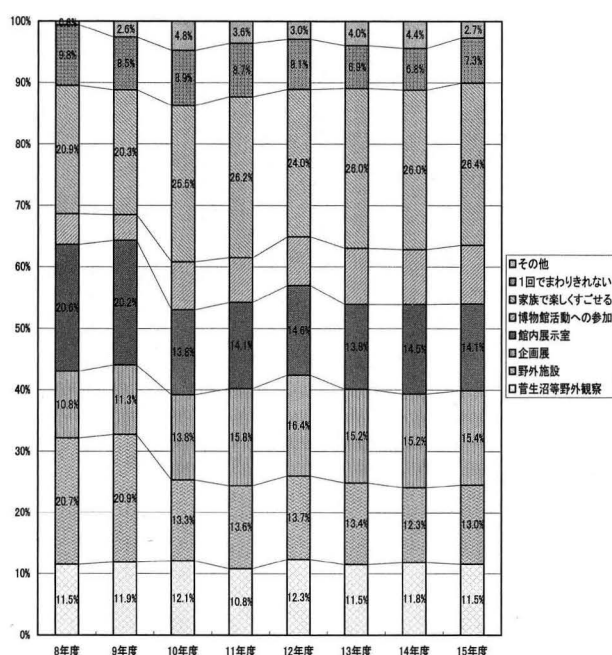


図4 何度も博物館へ来る理由



図5 横断幕広報実施状況

今なお有効な媒体として利用している。方法としては、報道記者に向けて企画展やイベント情報を資料提供する（パブリシティ）方法、企画展紹介等の連載記事を依頼する（投稿）方法など無料掲載を前提に依頼するものと、有料として大手紙の地方版、地方紙、新聞折込情報紙に広告掲載する方法などがある。このほかにも、県や県教育委員会、その他県内外の市町村の広報紙、出版社、タウン情報誌への毎月の掲載依頼や情報提供、取材・執筆協力など積極的に広報している。

3. ラジオ・テレビ等の媒体による広報

紙媒体以上に直接的な効果を発揮する媒体として電波を利用したメディアによる広報も積極的な取り入れを図っている。テレビについては、公共放送としてNHKの影響力は大きく、直接的な効果が認められる媒体であることから、様々な面からの協力を仰いでいる。具体的には、当館の博物館協議会委員にNHK水戸放送局長を委嘱しさまざまな助言を受けており、さらには企画展開催にNHK水戸放送局との共催により実施している。また、今秋からの地上波デジタル県域放送開始にあたっての特集番組放送を依頼している。

そのほか、民放での館に有益と判断される取材撮影及び県ホームページ動画配信用の取材撮影は積極的に協力しているが、有料広告は実施していない。

ラジオ放送については、県域ラジオ放送局を介してアンケート結果による聴取局上位のAM・FMについて有料CM放送を実施している。これに付随して、企画展開催期間中の生中継や、県番組枠にとられない館独自の紹介を取り上げてもらっている。

4. 電子媒体による広報活動

家庭用コンピューター及び携帯電話の普及に伴い、館独自の広報機会が増加している。しかも前述1～3の媒体は館からの一方的な情報発信にとどまるが、電子媒体は、その



図6 広報用移動博物館の実施状況

特徴である双方向性により、発信側と享受側での情報交換を容易にすることから、多くの館でも広報の中心に移行していると思われる。当館においてもホームページ（携帯アクセスあり）、メールマガジン（携帯は未実施）、印刷媒体利用の携帯用バーコード広報も開始するなど、さらに機能充実を図っている。しかしその反面、個人情報保護のための情報管理セキュリティなど対応すべき問題も増加している。

5. 他の機関・団体との連携による広報イベント

メディアを利用する広報以外に、直接スタッフが実施する広報活動として、各種団体との連携で実施する移動博物館がある。この事業は教育普及事業として、県内の遠距離にある学校や養護学校、社会教育施設において、博物館資料の展示や体験学習を実施するもので、当館の開館当初から継続している。最近では、公民館・図書館等の社会教育施設での実施に力を入れており、教育普及でも博物館紹介という広報要素の濃いものになっている。さらにこれらに類した事業として、高速道路サービスエリア等の集客施設と連携して、小規模ながら一般の誘客を図る広報手段としても実施している。（図6）

＜まとめ＞

以上論じてきたとおり、当館における広報は多岐に及び、広報担当課だけでは実施が難しい状況にある。生活様式の多様化に伴い来館者の要望も多様化を見せている。入念なリサーチの集積とそこから導き出される来館者の動向の解析、そして友の会やボランティアを含めたスタッフ全員がそれぞれに広報担当としての意識を持ち、協力することが大切なのではないだろうか。館の大小や公私の別に限らず、博物館広報の1つの在り方として参考にいただければ幸いである。

「みんぱく」からの情報発信

(大学共同利用機関法人人間文化研究機構)国立民族学博物館管理部広報企画室広報係長 和田 岳子

国立民族学博物館

国立民族学博物館（みんぱく）は、大学共同利用機関のひとつとして昭和49年に設置されました。民族学・人類学を中心としたさまざまな関連分野の研究活動を行い、その成果を出版物や展示をとおして公開しています。展示場の一般公開は昭和52年11月で、以後平成16年3月までに830万人を超える観覧者を迎えています。

平成16年4月、みんぱくは、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の1機関になりました。この法人化にともない、みんぱくの情報幅広くともタイムリーに発信していくことが今まで以上に求められており、広報の重要性はますます大きなものになってきています。

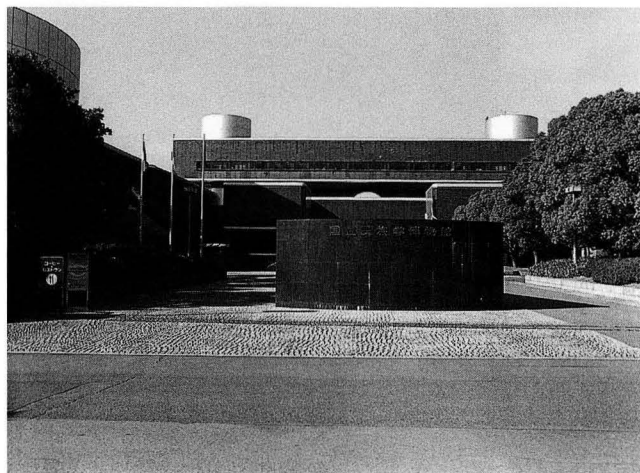
みんぱくの広報は大きく二つに分かれます。研究者に向けた広報と一般の博物館利用者に向けた広報です。研究所と博物館の二つの側面を持つみんぱくでは、この二つの対象に向けた広報を通じて、みんぱくとは何なのか、そしてどのような活動をしているのかを的確に伝えていかなければなりません。みんぱくという存在を理解してもらうこと、広報はここから始める必要があると考えています。

研究者への広報

大学共同利用機関法人であるみんぱくの研究者は、教授、助教授、助手という大学の教員と同じ身分をもっています。学芸員という身分の研究者をおく博物館とは少し趣が違いかもしれません。研究者向け広報と市民向けの広報と分けて考えるのは、みんぱくがこのような研究機関としての性格をもつことによります。研究者向け広報の主な対象は大学等の研究者で、研究成果の出版活動が中心になります。

みんぱくでは、研究者向けに広報誌と研究報告の2種類の出版物を発行しています。広報誌としては『民博通信』（季刊）と『MINPAKU Anthropology Newsletter』（欧文・随時）、研究報告としては『博物館研究報告』（和・中・英文・季刊）『Senri Ethnological Studies (SES)』（欧文・随時）、調査報告として『Senri Ethnological Reports (SER)』（随時）があります。

また、年間をとおした多方面にわたる研究者の活動をま



民博外観



出版物

とめた『研究年報』（年1回）を発行しています。

市民への広報・普及活動

市民向けの広報・普及活動は、博物館と研究所の二つの側面を持つみんぱくの活動を理解していただくためのものと、みんぱくへの来館を動機づけるためのもの等があります。その中のいくつかをご紹介します。

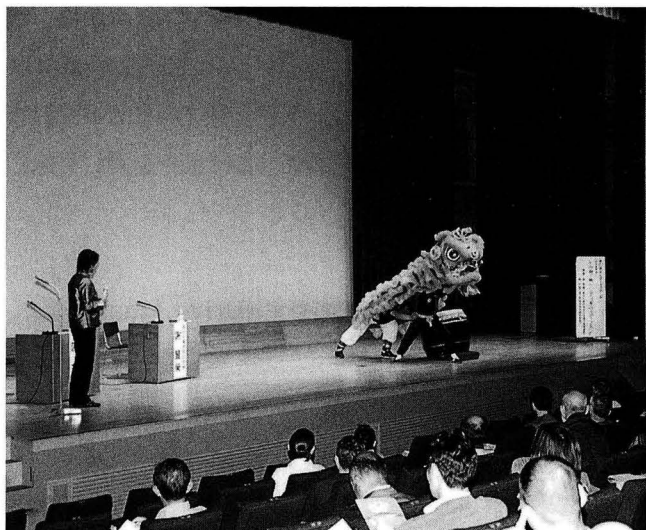
出版活動の中心となっている一般向けの広報誌『月刊みんぱく』は、博物館が一般公開されるより1ヶ月早い昭和52年10月に創刊され、平成16年3月で第318号になりました。主に博物館や学校、図書館、民博友の会会員などに送付して、たくさんの方にみていただき、世界の民族に関することや、その時々の特展関連の資料説明や研究活動を分かりやすく解説し、興味深く理解しやすい形で、情報を提供

しています。

一般向け講演会の中心である「みんぱくゼミナール」は月に1回開催し、平成16年3月で311回を迎えました。当初は展示場でのギャラリー・トークに代わるものとして始められましたが、現在は研究の最新の情報なども交えて多彩な内容になっています。原則として第3土曜日に開催しているので、定期的な参加者も増え、1回平均250名ほどの参加があります。

みんぱくゼミナールの他に、「学術講演会」も行っています。複数の研究者が1つのテーマのもとに、最新の研究成果を講演するもので、ゼミナールがみんぱくの講堂で行うのに対して、学術講演会は東京と大阪の中心地で開催しています。

また、これらに加えて、研究者が解説しながら世界各地の民族芸能などを上演する研究公演や、みんぱくで製作した映画や著名な映像人類学の作品を上映するみんぱく映画会を開催して、毎回好評を得ています。



みんぱくゼミナール

インターネットによる広報とマスコミへの広報

インターネットによる広報は、比較的歴史が浅いため、まだ発展途上にあるといえます。博物館活動の広報から始まったホームページの活用は、研究活動の広報、データベースの公開との連携と範囲を広げ、現在はみんぱくのあらゆる分野にまたがる総合的な広報媒体へととなりつつあります。今後は、研究所であり、かつ博物館であるというみんぱくの特徴をいかして、更に豊富な情報を提供していこうと計画しています。

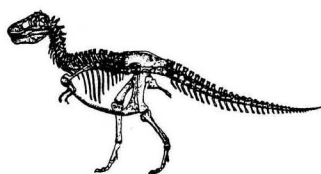
みんぱくでは、昭和55年8月から、「報道関係者と館長との懇談会」（現在は「報道関係者と民博の懇談会」に変更）を月に1回定期的に開催しています。話題としては、研究者のフィールド活動の報告、特別展の紹介や公開、シンポジウムの開催、館員の出版物紹介等多岐にわたっています。

インターネットによる広報とマスコミへの広報は、研究者向けと一般向けの広報を包括したみんぱくの広報活動の中でも最も重要なものと考えています。

おわりに

みんぱくは創設から30年。本年の4月に法人化をむかえ、今まで以上に新しい広報のあり方を探る動きが活発になってきています。広報の問題は、単に手法の問題ではなく経営の問題であり、職員一人一人の意識の問題でもあります。今後、さまざまな分野の方々の意見を聴きながら、みんぱくにふさわしい広報戦略について探っていきたいと考えています。

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

ミュージアムの集客を強力にサポート
新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】

イベント情報ポータルサイト
EventNAVI
<http://www.eventnavi.ne.jp>

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご活用ください。

イベント情報
無料登録受付中！

株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171(代)
ホームページ <http://www.nomurakougai.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
ISO9001認証取得（文化環境カンパニー）ISO14001認証取得（MCカンパニー）

カリフォルニア科学アカデミーにおける 広報・マーケティング活動について

国立科学博物館 小松 孝彰

本年1月から約1ヶ月間、米国のカリフォルニア科学アカデミー（California Academy of Sciences、以下「アカデミー」という。）において、その広報・マーケティング活動に関して実状調査を行った。

アカデミーは、サンフランシスコ市郊外のゴールデンゲートパークに位置する、自然史系としては世界でも10本の指に入る NPO の博物館である。1853年の創立以来、総来館者数は1億人を超え、コレクションは1,800万点にも及び、そのミッション「自然界を探究し、解説すること (Explore and Explain the Natural World)」を遂行するために、研究・教育・展示の3分野における活動を積極的に展開している。現在、150年の歴史を誇るアカデミーも変革の時にあり、ゴールデンゲートパークにある施設は2003年をもって閉鎖され、2008年のリニューアル・オープンに向け大規模な改築工事に入った。それまでの約5年間、アカデミーは市内の中心部であるダウンタウンに移転する。

1. アカデミーにおけるマーケティングの目的と役割

公衆の理解と信頼、好感を獲得するために、博物館は広報という継続的なコミュニケーション活動を行う必要がある。公衆との良好な関係づくりを図る上で、広報は重要なマーケティング手段のひとつなのである。よって、米国では、広報とマーケティングを同一の部署で実施する機関が多く、アカデミーにおいても広報はマーケティングの一環として融合、実施され、マーケティング&コミュニケーションズ課がそれを担当している。

マーケティング&コミュニケーションズ課の使命は、そのミッション・ステイトメントにおいて、「サンフランシスコ、カリフォルニア、そして全米を対象に、研究活動や展示、各種事業を宣伝するために公衆とコミュニケーションをとり、アカデミーの利用者の増加とアカデミーへの理解増進を図る」と明確にされている。このことから、マーケティングの目的は、「アカデミーの利用者を増やし (Drive Attendance)、アカデミーに対する信頼・好感を作り出す

(Generate Goodwill)」ことだといえる。

アカデミーの利用者が増えれば入館料等収入は増加し、アカデミーやその活動に対する信頼・好感が増せば、寄附金や政府からの補助金を得やすくなる。よって、マーケティングが効果的に実施されれば、アカデミーはその事業収入をより増加させることができる。

アカデミーにおける事業収入は、人的資源と同様、そのミッションを遂行する上で欠かせない資源である。従って、マーケティングはその活動を支える重要な役割を担っているのである。

2. マーケティング&コミュニケーションズ課の活動

マーケティング&コミュニケーションズ課では、課長以下5名の職員が、それぞれマーケティングの目的と役割に対して共通認識を持ち、以下のような活動を企画し実施していた。

(1) 「アカデミーの利用者を増やす (Drive Attendance)」ための活動

① アドバタイジング

新聞や雑誌等に広告を掲載する他、ポスター、チラシ、クーポン等を配布する。ただし、基本的に作成、掲載には別途費用が発生する。

② パブリシティ

研究活動や展示、教育活動に関する話題や行事予定をプレスリリースとして発表する。①とは異なり、作成、掲載にかかる経費は不要だが、記事として取りあげられるかどうかはマスコミ次第。従って、プレスリリースを送付するだけでなく、有力なマスコミに対しては、電話等により記事の掲載又は取材の依頼を追加で行っている。

③ コミュニケーション・ツールの活用

ウェブサイト、メールマガジン、メンバーシップ向けのニュースレター、館内配布のチラシや貼り紙等に、各種情報を掲載する。

これらは「アカデミーの利用者を増やす (Drive Attendance)」ための活動であるが、併せて「アカデミーに対する信頼・好感を作り出す (Generate Goodwill)」効果も期待できる。

(2) 「アカデミーに対する信頼・好感を作り出す (Generate Goodwill)」ための活動

① パブリック・イベントの実施

(例)

・アースデイ・フェスティバル

毎年4月、地球環境保全をテーマに様々なプログラムを実施。自転車、バスの利用者は無料入館。

・150周年記念アウトドア・フェスティバル

昨年9月に実施された創立150周年記念野外イベント。公園内に観覧車、バンド演奏ステージなどのアトラクションを設け、アカデミーは教育活動を実施するほか、2004年のダウントウンへの移転や2008年のリニューアルをキャンペーン。

② 自転車・バス利用者への入館料割引の実施

省エネルギーを奨励し、自転車、バスを利用する来館者は2.5ドル割引。

③ 近隣住民無料公開日の実施

郵便番号ごとに、その地域の住民の無料入館日を設定。来館者の6割を占めるベイエリア周辺住民との関係作り。

④ アウトリーチの実施

他団体が行うイベントにアカデミーのブースを出店し、チラシやステッカーの配布、ショートゲームなどを行う。2004年のダウントウンへの移転や2008年のリニューアルをキャンペーン。

このように、来館者へのサービス向上や社会貢献の一環としての活動が、「アカデミーに対する信頼・好感を作り出す (Generate Goodwill)」効果を持つ。

また、「アカデミーに対する信頼・好感を作り出す (Generate Goodwill)」ことは、結果的に「来館者を増やす (Drive Attendance)」ことにも結びつく。

3. 研究部門、展示部門、教育部門との連携

マーケティング&コミュニケーションズ課がその活動を実施する際には、研究部門、展示部門、教育部門との連携が重要となる。パブリック・イベント開催時に協力を受けることはもちろん、これらアカデミーのミッションを司る

3部門の活動を広報するために、連絡を密にすることは必要不可欠とされている。そのため、同課の職員が担当者間のミーティングを開催したり、または他部門のミーティングに参加したりと、情報交換や情報収集がたびたび行われていた。

このように、広報・マーケティング担当部署が他部門とのコミュニケーションをより深めること、及び同部署に各部門の最新の情報が集まるような仕組み作りの必要性を感じた。また、打合せの席のみならず、ちょっとした立ち話や雑談の場から広報素材を発掘することもあるそうで、担当者が常にアンテナを立て、話題収集に努めることも大切かと思われる。

4. 広報計画の作成

緑豊かな郊外の公園から都心部へ移転したアカデミーは、近隣に美術館やアミューズメント・スポット等、多くの競合施設を抱えることになった。文化教養、学習機会、家族と過ごす時間、もしくはエンターテインメントを求め街へ集まる人々に対し、アカデミーは自らをこれら4つのニーズに応えられる施設であると位置づけている。また、ターゲットとなる年齢層も20~30代が新たに加わり、その年代に効果的なFMラジオ局と連携した広報も模索されていた。このように、移転を控えたアカデミーでは、競合相手間における自らの位置づけ、ターゲットやコミュニケーション・チャンネルの設定等、広報計画が戦略的に練られていた。

サンフランシスコ同様、日本各地にも多種多様な娯楽施設が存在し、多くの博物館はこれらの施設と競争していかなければならない。そのためには、公衆のニーズを把握し、それに見合った広報計画を作成、実施する必要があると考える。

美術

は く 製

〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所
会社

製作所 〒272-0816 ☎047-337-5678
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

テヘランに馬の博物館が開館

ポロ競技はイランの代表的な馬術競技であり、現在でもモロッコや近隣諸国との国際交流試合を頻繁に国内で開催している。またイラン東北部のトルコメン遊牧民が育てた馬を使って、競馬が春と秋にイラン各地で賑やかに開催されている。

このように馬との関わりが深いイランで、このほど2004年5月26日に初めての馬の博物館が開館した。同館は、イラン政府の文化遺産観光機構の協力を受けて、イラン馬術連盟によって設立され、イランにおける馬術の伝統の保存と普及を活動の目的にしている。常設展示では、カジャール朝(1796-1925年)で使われた戦車をはじめ、鞍やあぶみ等の馬具が数多く紹介されている。またホルマリン液づけになった名馬の頭部も見られる。平屋建ての建築は、古代ペルシアのアーケメネス様式を模しており、テヘラン市内のテヘラン馬事公苑に建てられている。

Horse Museum, Tehran.

ワシントンDCに新しい科学博物館が開館

米連邦政府の諮問機関として機能している米国科学アカデミー（National Academy of Sciences）によって新しい科学博物館がワシントンDCに2004年4月23日に開館した。同館はカリフォルニア大学のダニエル・コシュランド教授（生物化学）からの寄付で設立基金が設けられ、肺癌で他界した免疫学者の夫人マリアン（1997年没）を記念する目的で設立された。

新しい施設の常設展示は、三つのテーマによって構成されている。「科学の不思議」は、宇宙についてどのように科学者が挑戦しているかを紹介している。「地球の温暖化」では、地球の温暖化の原因は何であることを明らかにしてくれる。「DNA の利用」では、病気の発見、穀物の品種改良、刑事犯人の特定に、どのようにして DNA が使われているのかを明らかにしてくれる。

Marian Koshland Science Museum.

<http://www.koshland-science-museum.org/>

先祖の遺骨の返還を求めて、ビショップ博物館へハワイの市民団体が抗議行動

ビショップ博物館にある先祖の遺骨や墳墓から発掘された副葬品の返還を求めて、ハワイの先住民族からなる市民

団体が、2004年5月29日の正午から24時間の抗議行動を同館周辺で展開した。主催者側によると、ビショップ博物館では不法な手続きによって入手した100体の先住民族の遺骨が収蔵されており、それらの全面返還を求めており、当日の抗議行動はその返還運動の重要なイベントとして企画された。遺骨が戻れば、先祖の霊が静かに眠れるように、先住民にとって聖地であるハワイ島のカワイハエ洞窟に改葬するそうだ。当日の抗議行動は、ハワイの代表的な市民団体であるイリオウラオカラニ連合が發起人となり、ハワイ大学ハワイ研究センターとハワイ独立党やその他の市民団体も全面的に応援した。

Bishop Museum側の反応：当館の人骨標本はすべてオアフ島のモカプ半島での発掘から得られた貴重な学術資料であり、返還には応じられない（ビル・ブラウン館長の声明）。Bishop Museum, Honolulu.

<http://www.ilio.org/>

<http://huimalama.tripod.com/>

ニューヨークにスポーツ博物館が2006年に開館へ

アメリカではさまざまなスポーツが盛んであるが、同様にスポーツの博物館や殿堂も各地にある。今度あらたにニューヨークのマンハッタン島の南端に、スポーツの博物館が2006年のはじめに開館する。

同館は、全米各地にある30のスポーツの殿堂とスポーツの博物館と関連団体が発起人となって設立され、米国で最大のスポーツ博物館として開館される。総工費6千万ドルは、公的な資金と民間からの寄付で集められ、約8,400㎡の延べ床面積が計画されている同館は、バイヤー・ブレインダー・ベレ建築設計事務所が建築設計を、そしてギャラガー・アンド・アソシエーツが展示設計をそれぞれ手がけることになっている。常設展示では、アメリカで人気が高いスポーツの歴史と代表的な選手の偉業が紹介される。野球をはじめ、バスケットボール、フットボール、ホッケー、自動車レース、ゴルフ、テニス、ボクシング、陸上競技、水泳が取り上げられ、また大学スポーツとオリンピックも取り上げられることになっている。一方、これらが個別に紹介される他に、米国でのスポーツの原動力になっている社会的多様性も紹介されることになっている。

毎年の収益の中から、この博物館の設立発起人である30

のスポーツの殿堂とスポーツの博物館と関連団体に寄付が贈られることになっている。また年間入館料収入の3%が、民間の青少年育成財団に寄付されることになっている。

National Sports Museum, New York.

アメリカ自然史博物館で、カエルの企画展が開催中

カエルに手で触れるどころか、見るだけでもじんましんが出る人が結構いるが、食用ガエル（ウシガエル）の唐揚げは淡泊な味（鶏肉似）で、うまい。

そのカエルだが、200匹、それも世界各地から生きたものを連れてきて紹介した企画展が、現在ニューヨークのアメリカ自然史博物館で開催されている。カエルの生態、エコシステムの中のカエル、カエルの繁殖、化学薬品の原料として使われるカエル、食卓に上るカエル、毒にもなるカエル等のテーマが用意されている。また同館におけるカエルについての研究活動も紹介されている。会期：2004年5月29日－10月3日

ホームページでも、さまざまなカエルの鳴き声がイメージとともに紹介され、中でも巨大なアフリカウシガエルの咆吼は圧巻だ。

Frogs: A Chorus of Colors.

American Museum of Natural History.

<http://www.amnh.org/exhibitions/frogs/featured/>

虫の試食会が、アメリカ自然史博物館で開催

周知のように、わが国ではイナゴは佃煮にするとうまい（コバネイナゴ）。また蜂の幼虫も長野や岐阜で缶詰として食用にされている（クロスズメバチ）。攻撃性が強いオオスズメバチの幼虫は、赤坂のお座敷で先生方の間で喜ばれていると聞いたことがあったが、ある夏山中湖で養蜂業者が駆除したばかりのものを中華鍋で煎ってくれ、それを口にしたことがある。この話はなるほどと思った。なぜなら、その後、どうしたわけか、体が火照ったのだ……。

ところ変わって、グルメの街として知られるニューヨーク。2004年5月6日に、一日だけの企画だけだったが、虫を試食するイベントが、アメリカ自然史博物館で開催された。参加者は、自称グルメ通だけでなく、子どもを含めた幅広い年齢層の参加者が集った（多くはクチコミで）。

この『グローバル・キッチンの中の冒険』と題したイベントは、一般の人に広く、世界では虫を重要なタンパク源としている文化がたくさんあり、文化人類、栄養学、食の文化の視点から、多くのアメリカ人にとって奇異なものとして見られがちな食虫の文化を正しく紹介することがねらいになっていた。

同展は、そもそも2003年の夏に同館で開催された特別展『チョコレート』（フィールド博物館企画制作／7月14日－9月7日）がグルメ通の間で反響を呼び、彼らの中から、ふつうのアメリカ人の目からゲテモノとして見られがちな食虫に将来挑戦したらどうかという提案を受けて慎重に準備して開催されたものだ。

ニューヨークの高級レストラン『シタレラ Citarella』のペーストリー作りのシェフであるビル・ヨセス氏が講師として呼ばれ、参加者の前でさまざまな虫を調理した。調理したものはもちろん見るだけでなく、参加者の口にも入った。

ソテーされたココロギにオリーブ油とスパイスを少々加えたものは、参加者の多くにとって好評だった。中まで十分に熱を通して油で揚げたアリはレモン汁と相性がよく、また昆虫ではない毒クモのタランチュラのフライはカニ肉に近い味がしたようだ。ゴミムシダマシの幼虫やハチミツガの幼虫のフライは、ヨセス氏の手にかかると、ポテトチップスに似た味がしたようだ。食べた人にとって、ニギリにしたサソリ（茹でた状態）は、まるで海老のような味がしたそうだ……。

Adventures in the Global Kitchen.
<https://www.citarella.com/>

米 COSI 科学博物館（コロンブス）で、大々的なリストラが進行中

2004年4月19日に COSI 科学博物館（オハイオ州コロンブス）が発表した大々的なリストラ計画は全米に大きな波紋を与えた。経営に行き詰まり、その結果、全職員の25%にあたる70名が解雇され、その上経費節減策として1週間の休館日を2日に、全施設の20%を閉鎖。計画案は即日実行に移された。1999年に現在の元公立高校の敷地に新築移転した同館（1964年開館）は翌2000年に866,000の年間入館者を迎えたものの、その後坂を転げ落ちるように入館者が激減し、それが今回のリストラを迎えた。1999年の新築移転の際、6500万ドルの総工費はすべて連邦政府と州政府から拠出されたが、年間運営費については全額自前で稼がなければならなかった同館にとって、収入源となる入館料収入の激減は致命的なものになった。COSI Columbus.

<http://www.cosi.org/index.asp>

*（やすい・りょう） E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

7月8月の特別展

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
仙台市科学館	「ロボット展」(仮称)	7月18日～8月25日
秋田県立博物館	企画展「新展示室へのみちのり」	4月29日～8月22日
秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館	企画展「秋田の油田開発の歴史に学ぼう」ー石油資源の未来に向けてー	7月10日～9月3日
ふくしま森の科学体験センター	夏休み特別展「イメージの世界」	7月13日～8月29日
郡山市ふれあい科学館	企画展「衝突・活動する銀河」	7月1日～10月31日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	特別企画展「恐竜たちの足音が聞こえるー中国そして日本ー」	7月17日～11月14日
栃木県立博物館	企画展「脊椎動物の進化ー5億年の旅ー」	7月17日～9月12日
	テーマ展「瀟湘八景と名勝絵」	7月17日～9月12日
	テーマ展「巡回展 栃木の遺跡」	7月17日～9月12日
	テーマ展「栃木県の脊椎動物化石」	7月10日～3月31日
群馬県立自然史博物館	第22回企画展「海の王者 サメ」	7月17日～9月5日
群馬県生涯学習センター少年科学館	児童生徒理科研究作品展	7月24日～8月14日
	夏休みサイエンスウィーク2004	7月27日～8月1日
さいたま市青少年宇宙科学館	特別企画「夏休みワクワク科学工房2004」	7月17日～8月31日
所沢航空発祥記念館	特別展「星の王子さまとサン＝テグジュペリ展」	4月24日～7月4日
狭山市立博物館	夏休み鉄道展「出発進行!!」	7月17日～9月5日
千葉県立現代産業科学館	展示・運営協力企画展「ITがひらく未来ー情報技術の最先端ー」	7月17日～8月1日
東金こども科学館	つくば科学万博記念財団協賛 平成16年度巡回展「エネルギーラボ」	3月31日～6月30日
通信総合博物館	特別展「橋天敬展ー芸は神なり、術は人なり」	6月1日～7月4日
国立科学博物館	特別展「テレビゲームとデジタル未来科学」展	7月17日～10月11日
機械産業記念館 (TEPIA)	「ロボットと近未来ホームー日本を元気にする新技術」PARTIII	4月7日～7月23日
たばこと塩の博物館	夏休み塩の学習室『生きものにきこう!塩のひみつ』	7月17日～8月31日
東京消防庁消防博物館	特別展「再現 江戸火消の活躍 (仮称)」	7月17日～9月12日
板橋区立教育科学館	特別展「飛翔ー大空への挑戦ー」	7月24日～8月15日
三菱みなとみらい技術館	特別企画展「発電のひみつをさぐろう!!ぼくとわたしのエネルギーワールド」	3月16日～9月26日
横浜こども科学館	夏休み特別展「しゅっぱつしんこう!でんしゃはかせ」	7月17日～8月31日
神奈川県立生命の星・地球博物館	特別展「東洋のガラパゴス小笠原ー固有生物の魅力とその危機ー」	7月17日～10月31日
糸魚川フォッサマグナミュージアム	夏期特別展 ふるさとの翡翠展	7月17日～9月5日
新潟県立上越科学館	からくりミュージアム	7月31日～8月22日
黒部市吉田科学館	特別展「魚津地区小・中学校児童生徒優秀作品科学展覧会」	7月10日～7月21日
いしかわ動物園	動物園写真コンクール・入選作品展示	7月4日～7月19日
	特別展「動物園探検記ー動物園で、どんなところ」	7月21日～9月6日
福井市自然史博物館	夏の特別展「どうぶつたちのプロポーズ大作戦」	7月21日～9月26日
佐久市子ども未来館	宇宙船マーキュリー導入記念企画展「めざせ!宇宙飛行士」	5月22日～7月11日
	夏の特別企画「科学実験たんけん隊!ー身のまわりにある科学のヒントを探しに行こうー」	7月3日～8月31日
	夏の特別企画展「視覚、錯覚、ふしぎな世界」	7月17日～9月20日
飯田市美術博物館	企画展 平和の使者「長野絹子と青い目の人形たち」展	7月17日～8月8日
	企画展「ひと・むし・たんぼ」	7月17日～10月3日
岐阜県博物館	特別展「タイムトラベル 石器時代ー大昔はどんな暮らしをしていたの?ー」	7月10日～9月5日
大垣市サイトピアセンター学習館	夏期特別展「自然のめぐみ展」	7月17日～8月30日
	夏期特別展「第6回水のある風景フォトコンテスト入賞作品展」	7月17日～8月30日
光記念館	企画展「恐竜展ー恐竜たちの鼓動が聞こえるー」	5月29日～9月5日
中津川市鉱物博物館	第8回企画展「石川地方の鉱物ー日本のペグマタイト産地その2」	8月1日～11月7日
瑞浪市化石博物館	特別展「30年のあゆみ」	6月13日～8月29日
サイエンスワールド	開館5周年記念特別企画「科学を創った人々」	7月18日～8月19日
富士川楽座	夏期特別展「ラ・ビレット展ー数あそび&楽しいコンピューター」	7月17日～9月5日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「目にもふしぎな錯覚展」	7月17日～8月31日
東海大学海洋科学博物館	特別展「サメ大博覧会ーメガマウスザメがやって来た!」	7月17日～8月31日

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
浜松科学館	「人体の不思議展」	7月17日～8月31日
名古屋市科学館	特別展「むし虫ワールド」	7月17日～8月31日
あいち健康の森健康科学館	「あれあれふしぎ?見たらだまされる!」	7月18日～9月26日
トヨタ博物館	企画展「こども博覧会」(仮称)	7月16日～10月17日
神宮徴古館・農業館	企画展「暦(こよみ)」	8月10日～10月31日
真珠博物館	企画展「愛の妙薬」	4月16日～12月13日
鳥羽水族館	特別展 ポーンズ博士のホネ研究所「わしゃ戻ったゾ!」	2月14日～11月7日
神戸市立青少年科学館	特別展「おもしろ昆虫展」	7月17日～8月31日
兵庫県立人と自然の博物館	企画展「川のしくみ」	6月19日～9月26日
伊丹市昆虫館	特別展「いたこん☆カーニバル」	7月14日～8月30日
明石市立天文科学館	「南極展」	7月10日～8月31日
島根県立宍道湖自然館ゴビウス	企画展「しまねレッドデータの生きものたち～水辺編～」	7月17日～8月31日
広島市こども文化科学館	TU・KU・RU2004「うごく楽しき発見!モーターコンテスト」	7月21日～8月1日
あすたむらんど徳島 子ども科学館	第11回企画展「モンスターの館ー不思議大冒険ー」	7月16日～8月31日
愛媛県立博物館	テーマ展「今はなき松たち」	6月1日～7月27日
	特別展「地震」	7月31日～8月19日
愛媛県総合科学博物館	特別展「すごいぞ!むかしの生きもの～化石でたどる動物の進化～」	7月10日～8月31日
福岡県青少年科学館	特別展「探検!こん虫ワールド」～知ってる?こん虫の秘密～	7月17日～8月31日
佐賀県立宇宙科学館	夏休み特別企画展「恐竜」	7月13日～8月31日
宮崎総合博物館	平山郁夫からのアピール 流出文化財を守れ～アフガニスタンそしてイラク～	7月17日～8月29日
鹿児島市立科学館	オムニマックス企画展	7月1日～9月30日

【新館オープン】

久慈琥珀博物館(岩手県)

[主なコーナー(新展示物)の名称]

本館 再建された「琥珀の間」の展
開写真パネル

新館 シンボル展示「太陽の石」、
ジオラマ「太古の森」、アン
バーラボ、琥珀リウム、琥珀
ギャラリー



[新館の展示面積] 260㎡

[オープンの期日] 平成16年6月1日

[準備期間(基本設計・実施設計・施工期間等)]

I期 平成15年9月～平成16年5月

[担当業者]設計 株式会社 電通東日本

施工 株式会社 戸田建設

展示 株式会社 丹青社

[総工費] 300,000,000円

【新展示】

吉備高原ニューサイエン
ス館(岡山県)

[新展示物] ナノテクノ
ロジー

[展示室名] 常設展示室

[展示面積] 約6㎡



[オープンの期日] 平成16年4月1日

[準備期間(基本設計・実施設計・施工期間等)] 約6ヶ月

[担当業者] 設計・施行・展示 株式会社 内田洋行

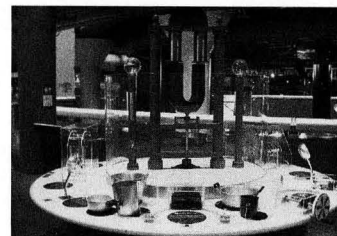
[総工費] 10,000,000円

浜松科学館(静岡県)

[新展示物] ピクシーの
発電機

[展示室名] エレクトロ
ニクスのコーナー

[展示面積] 5㎡



[オープンの期日] 平成16年3月8日

[準備期間(基本設計・実施設計・施工期間等)] 1年

[担当業者] 設計 株式会社 環境デザイン研究所

施工 株式会社 乃村工藝社

[総工費] 34,400,000円

[新展示物] 光電子増倍
管

[展示室名] プラネタリ
ウム ホワイエ

[展示面積] 2㎡

[オープンの期日]

平成16年4月1日

[準備期間(基本設計・実施設計・施工期間等)] 1ヶ月

[担当業者] 設計 浜松科学館

施工 地元業者

[総工費] 500,000円



お知らせ

○地域子供教室推進事業について

文部科学省の提唱のもと、未来の日本を創る心豊かでたくましい社会全体で育む環境を整備するため、平成16年度から「子どもの居場所作り新プラン」、またその一環として「地域子ども教室推進事業」を行うこととなりました。この事業について全科協としても全面的に協力することとし、さる6月23日に行われた総会においても報告があったところです。この事業について詳しく知りたい方は下記まで照会願います。

【お問い合わせ先】

国立科学博物館内

全国科学博物館等における地域子ども教室推進事業運営協議会（仮称）事務局

担当：斉藤、山崎

Tel：03-5814-9857 fax：03-5814-9898

文部科学省生涯学習政策局子どもの居場所づくり推進室

担当：西條、平田、下田、大菅

Tel：03-6734-3260 fax：03-6734-3281

ホームページ <http://www.ibasyo.com>

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー投映を可能にした小型・高精細のデジタルプラネタリウム。さらにドーム全天に高画質なCG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、さまざまなシーンで活躍します。

▶ 各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階 TEL (03) 3349-5301
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階 TEL (06) 6110-0570
東海事業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
URL: <http://konicaminolta.jp/planetarium/>

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社丹青社

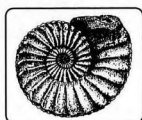
〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡

URL <http://www.tanseisha.co.jp>

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

髯東京サイエンス

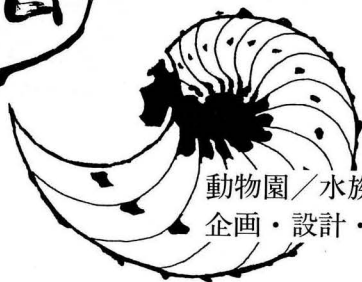
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745

<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail: info@tokyo-science.co.jp

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT

ONY KOB CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3 シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工

kokoro

株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター

河野光子

滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長

高橋啓一

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課専門職員原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 齊藤 健

Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成16年7月1日

発行 全国科学博物館協議会◎

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社